

令和5年度 第1回御殿場市総合教育会議

日時

令和5年8月28日（月）午後1時30分から午後2時55分まで

場所

御殿場市役所 東館201～203会議室

出席者

御殿場市長	勝又 正美	教育長	勝亦 重夫
教育委員	勝又 英和	教育委員	杉山 ゆかり
教育委員	大西 孝明	教育委員	渡邊 直子
教育委員	長田 光男		

陪席者

教育部長	教育総務課長
教育施設課長	学校教育課長
社会教育課長	学校給食課長
社会教育課図書館長	
学校教育課主席指導主事	教育総務課課長補佐
学校教育課課長補佐	社会教育課課長補佐
社会教育課副参事	教育総務課副参事
西学校給食センター所長兼高根学校給食センター所長	
教育総務課課副参事	教育総務課副主幹
教育総務課主任	教育総務課主事

次第

- 1 開会
- 2 市長挨拶
- 3 教育長挨拶
- 4 協議事項
 - ・コロナ後の地域づくりのあり方
- 5 閉会

1 開会

教育総務課長（進行）

本日はお忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございます。

定刻になりましたので、ただ今から令和5年度第1回総合教育会議を開催します。

全体の進行は教育総務課の山崎が務めさせていただきます。よろしくお願ひします。

会議は次第に沿って進めさせていただきます。

それでは、次第の2「市長挨拶」、市長お願ひします。

2 市長挨拶

市長

皆さん、こんにちは。

今日は令和5年度の第1回目の総合教育会議ということでご苦労さまです。

本日は、学校が始業式ということで、2学期が開始されます。今日は朝早くから、巡回ラジオ体操「みんなの体操会」が開催されました。陸上競技場に650人が集まってくれました。

NHKの生放送で、非常に盛況のうちに終わることができました。本当は、子ども達にも来ていただきたかったのですが、学校初日ということで、日程的に厳しい状況でした。またこうした行事にも、参加していただくとありがたいなと思っております。

本日の協議事項は、色々なテーマがある中で、「コロナ後の地域づくりのあり方」です。今しかできないテーマであり、また今が一番大事な時期なのかなという思いを持っております。

昨年から区長会等に向けて、積極的に行事を準備して行って欲しい旨お願いをしています。

やはり、地域の人から見ても、子ども達が色々な行事に参加して欲しいという想いはあるのではないかと思います。

子ども達は非常に感性豊かであります。そういった行事からいろいろ学ぶことであるとか、感じることであるとか、感動だとか、そういうものを、子ども達が培っていくということは重要だと考えます。

子ども達が健全に育っていくためには、学校とはまた違った場や経験というのが非常に大事なことなのかなと思っております。

そうは言いましても、昨年度までのコロナの位置づけでは、行事を盛大に開催するという事は、なかなか厳しい状況でした。

今年に入りまして、コロナの位置づけが変わった5月以降からは、納涼祭であるとか、歩行者天国であるとか、色々なお祭りを実施することができました。

行事に参加している子ども達の笑顔を見ますと、元気が戻ってきたと、私も実感しております。こうしたイベントや行事は、子ども達の成長のためには、必要なかなと思っております。

コロナ禍という困難を経験した今だからこそ、今後の地域活動を検討する良い時期であると思えます。

また、これからどのようにして、子ども達を育てていこうかと、そういうことを考える場でもあると思えます。

今日は、地域づくりという、少し過大なテーマかもしれませんが、それに絡んで学校

でやるべきことであるとか、あるいは地域のためにやるべきことであるとか、それを子ども達にどういうふうに伝え、育てていこうかとか、どのような話題でも結構ですので、あまり偏らない話をさせていただくとありがたいなと思います。

教育委員の皆様には、色々な行事にご出席いただき、本当にありがとうございます。

大変ですけども今日、よろしくお願ひしたいと思います。

教育総務課長

ありがとうございました。続きまして、次第の3「教育長挨拶」、教育長お願いします。

3 教育長挨拶

教育長

皆さん、こんにちは。

今年度第 1 回目の総合教育会議ということで、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

この総合教育会議は、教育委員会としまして、教育行政を充実発展させていくために、条件整備、あるいは学校学習や文化、そういったものの政策等を、市長と協議をする非常に重要な機会となります。よろしくをお願いします。

先ほど市長から話がありましたけども、新型コロナが 5 類になり、行動制限が大幅に緩和されております。その関係で、中止せざるを得なかった色々な行事、イベントが、次々と活動しております。

大人も子どもも、豊かな表情が戻ってきており、本当に嬉しいなと思っております。様々なイベントを行う中で、人が集うことの大切さとか、一つ一つの関わりが重要であり、私達の生活の中には、どうしても必要であるということを実感しているところです。

本日の会議のテーマとして取り上げるのが「コロナ後の地域づくりのあり方」ということとなります。

コロナは、3 年以上に渡り私達の生活に影響を及ぼしてきました。実際には、コロナの前から時代はどんどん変わっておりまして、人と人との繋がりが減少していると言われてきました。コロナによってさらに厳しい状況となって、地域作りという面では、いろいろな課題が顕在化しているというような状況です。

私達の日常生活の場となっている地域とは、いわば生活そのものです。安心感とか、あるいは充実感などに関わっております。

また、本市の子ども条例行動計画ですが、ここに示してありますように、社会総がかりで未来を担う子ども達を、健やかに育成することが基盤となります。

持続可能な社会という言葉をよく聞きますが、こういった視点からも、この地域作りというのは重要なものとなります。

自分の子どもの頃を思い出しますと、近所の大人たちと話をする機会は結構ありました。そこで、うるさいことを言われたりすることもあったのですが、後で振り返ってみると、有難みがあるかなとか、そういったことに繋がっていきます。

昨今、家庭の教育力の低下が取りざたされておりますが、地域全体の教育力も低下しているのかなと思います。

地域行事を経験することにより、人と人との繋がりとか、あるいは地域コミュニティの大切さ、そういったものが実感できると思います。コロナ後にどのような形で地域づくりを進めていくかということは、未来の社会を考えていく中でも、非常に必要不可欠

なものであるかと考えております。

4 協議事項

・コロナ後の地域づくりのあり方

教育総務課長

教育長ありがとうございました。

早速ですが、「4 協議事項」に移りたいと思います。

これからの進行につきましては、勝又市長よりよろしく願いいたします。

市長

ここからは私の方で進行させていただきます。

それでは、協議件目の「コロナ後の地域づくりのあり方」を事務局より説明願います。

社会教育課長

本日の協議事項の地域づくりですが、コロナウイルス感染症の拡大前は、本市においても、各地区においても活発に行われておりました。

しかしながら、令和2年のコロナ禍により、地域の体育・文化行事、納涼祭、神社等の祭典などは中止又は縮小となり、河川清掃や地域防災訓練など、住民の安心安全を守るための行事のみ行われてきました。

そのような現状を踏まえ、社会教育委員会では、令和3年度から4年度までの2年間にわたり、『ウィズコロナ・アフターコロナの地域づくり』というタイトルで、各区の活動状況を調査し、課題と提言を報告書という形で取りまとめ、今後の地域づくりの参考としていただくため、今年の3月に各区に、この報告書をお配りさせていただきました。

現在、地域づくり活動は、開催の可否や実施方法の変更など、大きな転換期にあると考えられます。

市としましては、これまでと同様に、地域の繋がりを維持していきたいと考えております。

本日の総合教育会議につきましては、先ほどから市長や教育長から話がありましたとおり、コロナ後の地域づくり活動の現状を踏まえた上で、それぞれの立場で、地域づくり活動のあり方についてどのように考えているか、意見交換をしていただきたいと思います。

そして、この総合教育会議で出された意見を、今後の地域づくり活動に活かしていきたいと思います。ぜひ活発な意見交換をお願いいたします。

市長

ありがとうございました。ただいま、社会教育課長から、現状といいますか、この提言について、地域との関わりを大事に大切に維持していきたいという、そういう方針をいただきましたが、これもまた参考にしていただければと思います。

それでは、早速ですけども長田教育委員から、お願いいたします。ざっくばらんに、気楽なご意見でも結構ですので、よろしく申し上げます。

長田委員

どうぞよろしくをお願いいたします。今年度から区長を務めさせていただいております。今地域づくりを牽引していく立場でありますので、実際に活動していることをお話ししたいと思います。

自分ごとで申し訳ないのですが、昨年一昨年と2年間副区長、そしてそれ以前の6年間を地区の事務局として区の運営に携わってきました。9年目の今年度が地区に携わる仕事の集大成と思って取り組ませてもらっております。

コロナ禍以前の行事開催は、非常に元気があり、懸念することと言えば、当日の天気くらいでした。

その様子が一変したのが、新型コロナウイルス感染症による影響です。令和2年3月からは、公民館の使用を制限せざるを得ない状況となりました。公民館は閉館が続き、総会も書面議決となりました。令和2年度の行事は、ほとんど実施することができませんでした。

この年の区長とは多くの話を本音でしながら、初めて経験するコロナ禍の運営をしました。

最初は行事ができないので、正直楽だろうと考えておりました。しかし、行事を実施するための過去の記録やマニュアルは存在しますが、最初から行事を中止するための基準やマニュアルなどはなく、ゼロからの運営でした。

毎年の記録やマニュアルに基づいて、行事を例年通り実施していることのありがたさを実感しました。

翌年もほぼ同じ状況が続きました。

3年目の前年度の区長は、全ての行事をやる方針で運営をスタートしました。しかし、新型コロナの感染状況とか拡大感染防止のために、コロナ禍以前の活動の40%程度の実施に留まりました。

今年度の区長としての方針は、全ての行事を再開することを前提の上で、年度当初に区民の皆さんへの挨拶をしました。内容は次の通りです。

「一気にコロナ前に全て戻そうとはせず、やり方を工夫するなどして、できることから再開しようと考えております。大きな事故や災害でないことを願い、コロナ禍以前の活気あふれる活動状況に近づけるという思いで 1 年間務めますので、皆様のご協力をどうぞよろしくお願ひします。」という内容の回覧で方針を示させていただきました。

今年の 2 月になりますが、前社会教育委員長が定例教育委員会に来てくださり、「ウィズコロナ・アフターコロナの地域作り」という社会教育委員会作成の報告書をいただくことができました。区長の身としては最高の贈り物であったと思っております。

前年度の区の会合等で、区長がこういうことをやりたい、再開したいと提言すると、今やる時ですか、やれる時ですか、誰が責任を取ってくれるのですか、といった意見が出て、そのまま同調圧力となり、前に進むことができないジレンマがありました。

そんな壁を取り払うためのツールとして、社会教育委員会作成の報告書を活用してもらおうと考え、4 月に入る前から組長や各種団体の役員に配布し、会合やミーティングなどの説明において活用させていただきました。

結果、今年度 4 月からは行事や懇親会などに関する否定的な意見は一切ありません。報告書の中で一番伝えたかったのが 13 ページにあります。

「(4) 人と人との繋がりを持てるような行事への発想の転換」そして、14 ページ最終行にあります「新型コロナウイルス感染症というピンチをチャンスに変え、」という部分です。

4 月から既に 5 ヶ月が過ぎようとしております。年間行事計画で中止になったものは今のところありません。

完全復活した行事の話の一つさせていただきます。盆踊り大会を 7 月 15 日土曜日に実施することができました。盆踊り大会のための事前の打ち合わせを 4 月 22 日に開催し、5 月 14 日に最初の役員会を開催、この際には、4 年前の引き継ぎ資料をしっかりと把握してもらいたいとお願いをしました。

6 月 17 日に区として 40 名の実行委員会を開催。7 月 8 日に第 1 回の盆踊りの練習を公民館体育館で実施、婦人部と子ども会が中心で、130 名の方が来てくれました。

7 月 10 日の第 2 回の踊りの練習も、婦人部と子ども会が中心で、100 名の方が来てくれました。どちらも子どもの参加人数が非常に多く、子ども達が初めて踊りを踊るのを見て明るい将来を感じました。

中学生ボランティアを募集したところ、準備に定員 5 名のところ 10 名が、放送係定員 3 名のところ、6 名が応募してくれて、中学生の意識の高さに驚かされましたし、自分たちの励みにもなりました。

大人の方は、盆踊りの振り付けを忘れていた方もいましたが、4 名の講師の方々に練習から指導に来ていただき、過去の婦人部長経験者に、輪の中心で踊ってもらい、多く

の方々が楽しそうに踊ってくれました。来年に繋げることができました。

やはり4年のブランクを感じることは多少ありましたが、3ヶ月前から念入りに事前準備をして臨んだことで、事故等もなく、多くの皆さんに楽しんでもらうことができ、実施して大変良かったと感謝しております。

今後の活動予定として、9月には敬老会を実施します。川島田区は対象の方が634名おられます。

4年前と比べて対象者が増加しており、公民館に入りきれないのと、高齢者の方の健康を考え、全員に記念品をお配りすることとし、準備を始めております。

もちろん勝又市長のお祝いメッセージを全員にお渡しします。

同じ9月に原里地区区民体育祭が開催され、区として参加をします。

4年前までは9月初旬に開催しておりましたが、川島田区の体育大会は行事予定に実は入れませんでした。新型コロナへの警戒ではなく、熱中症警戒で開催しないことを決定しました。今後は体育大会に代わるグランドゴルフ大会などを検討する必要があると考えています。

10月には秋祭りを開催します。前年は神輿をトラックに乗せて投入しました。今年も同様の対応と考えておりましたが、神社総代会長から、担いでもらいたいという要望を受けて、現在担ぎ手を募っております。既に会議を3回実施しており、完全復活させる予定です。

その2週間後に役員研修も実施します。4年前までバスの慰安旅行を実施しておりました。完全復活の予定で既にバス2台を確保しております。

11月には区民祭を実施します。12月の地域防災訓練では、避難訓練等を実施します。富士山火山、地震、台風などの災害発生時に、公民館に開設する避難所の役割と担当を明確に割り振った運営マニュアルを作成しましたので、最初の訓練を実施しようと考えています。

以上が今後実施していく予定です。

別の視点で地域作りをしていくのに大切とすることがあります。

川島田区の前年、前々前の2人の区長は、公民館主事を経験している方でした。

公民館主事を3年間、副区長・区長3年間で、トータル6年間多くの行事に関わってきました。その為、コロナ禍のブランクがありましたが、コロナ後の行事を再開することに支障がなかったと思います。

過去の行事に対するノウハウがあるなしでは、再開するための心積もりと自信が違ふと思います。

役員のなり手がなく、人材探しが大変な時代ではあります。

しかしコロナの舵取りの難しいときなどは、リーダーとなる役員の経験が大きく作用すると思います。これからはしっかりと舵取りをしてもらうというような、役員の育成をしていく必要があると思います。

少し長かったです以上です。

市長

ありがとうございました。

区長さんとしての地域作りとか、実際の経験から 1 回無くしたものを再開するのは難しいという、そういったお話をいただきました。また後ほど触れたいと思います。次に勝又委員のご意見を伺いたいと思います。

勝又委員

はい、よろしく願いいたします。

私の地元は二枚橋です。住宅街に該当すると思います。昔から住んでいる人も多いのですが、意外と新居が多いという、そんな地域性もあろうかと思えます。

令和 2 年度は急速な新型コロナウイルスの蔓延で、区も戸惑いながらも、行事の中止を決定いたしました。

中止した要因として、学校が休校になっているということが大きかったようです。学校が休みになっているのに、地域の行事を実施するということはないだろうという考えです。

翌年の令和 3 年度ですが、こちらの方はもう最初から収束が見えない状態だったので、事業は全て中止という判断がされました。

ただし神事に関しましては、令和 2 年度のときもそうですけども、他の行事と異なり、実施いたしました。行事としては年間で 4 回のみということや、やはり昔からの伝統で大事なことであるので、中止というわけにはいかないという判断です。最低限の人数で、規模を縮小して実施しました。

昨年度の区長は、当初はすべての行事を実施するつもりだったそうです。

うちの方へも、挨拶に来てくれて、そのときに「大丈夫？ できるの？」といった話をしました。区長は、「このまま地域活動が希薄になってしまうと、地域とのコミュニケーション不足によって、災害等が発生した場合にスムーズな対応ができなくなる恐れがある。それが一番怖いので、何とかやり切ります。」と、回答してくれました。その言葉通り、昨年度は二枚橋の行事は全て実施しました。

例外だったのが、敬老会です。通例では、二枚橋のコミセンの 2 階のホールで対象者を集めて、式典をやっておりました。

コロナ禍では、一つのテーブルに 3 人掛けが 2 人掛けになって、なおかつ間に仕切りを入れて対応することになり、コミセンの収容規模では対応できない事態となりました。

そこで、急遽会場を変更したのですが、例年 90 名位の参加者に対し、150 名応募があつて、大幅に予算を超えてしまいました。

今年も 9 月に敬老会がありますが、コミセンで式典をやるわけにいかず、かといって予算がもう全然ないという状況です。

そこで、二枚橋ルールを作成しました。二枚橋は、敬老会の招待者を 75 歳以上、ということにしました。当然、市からのお祝いは 70 歳で出るのですけども、二枚橋の敬老会の式典には、75 歳以上を招待するというルール作りをしまして、今年はそれでやる予定となっております。

私事ですが、来年敬老会に招待される予定でしたが、これで 5 年間延びてしまったという話です。

招待されるのが良いのか悪いのかよくわかりませんが、それでも、地域のコミュニケーション作り、非常に大事ではないかなと思っております。

今年度も区の行事が実施される際は、感染症対策をやっていきます。5 類に移行したということではありますけども、必ず消毒を用意して、無くなったのは仕切りくらいです。配慮をしながら、元の状態に戻そうということで、役員さんたちは苦勞をしているようです。

事業をやらないことで、役員さんにとっては楽になったと言う方もいます。

一方で、実績がないため引継ぎも十分にできない点があり、なかなか難しくなってきたということも聞きます。数年前の資料をもとに、また次の事業計画を立てなければならぬとかですね、やはりそういう役員さんの負担は増えております。

二枚橋は今年からは、一応平常運転を目指して、内容的にはできるだけ前の状態にはする方針です。そのときそのとき状況を見て、臨機応変に対応しながら、変えながらも、できるだけ良いことができるようにと、模索しながらやっているようです。

市長

ありがとうございました。

市街地における地域行事の現状や、あり方をお話いただきました。

続いて大西委員よろしく申し上げます。

大西委員

私も、7 年前に 3 年間、富士見原区の区長をやっておりました。当時の各区の区長からは、行事のアトラクションが毎回同じでマンネリ化しているという悩みを相談されました。

私が持ち前のサクソ演奏をイベントで実演したいということを提案したことをきっかけに、各区からオファーをいただき、のびのびとした、生き生きとしたイベントやお祭りができたと感じておりました。

区長2年目として次の活動していた中で、同時に教育委員に就任しました。その頃も各地区でサクソ演奏をしていたのですが、活動している中で、お客さんから、「サクソを吹きたいが、御殿場市内に行ってもサクソを教えてくれる人がいない。近隣の沼津市とか三島市に行かないと教えてもらえない。」という声を耳にしました。

御殿場市でサクソを教えてほしいというようなお声をいただき、令和元年から富士見原区でサクソ教室を開校しました。

その頃、市民会館と交渉し、カルチャースクールの講師としても契約をしました。現在9名の会員がいますが、毎年3月末に無料体験会を実施し、4月からの新入会員の募集をしておりましたが、体験のみの方が多く、入会できない理由を探りました。

理由は大きく三つありまして、一つは他人に迷惑のかかるかからない練習場所がなく、自宅で大きな音を出すと近所迷惑になるということで、家族に反対されること。

二つ目として、市内の有料音楽施設でサクソ練習をする許可をもらっていても、店員さんから、歌を歌いに来のお客さんに配慮して、音量を下げて演奏するよう指摘されること。

三つ目が、有料音楽施設での練習は、経済的な面で長続きしないことです。

市営で低料金の防音室がある練習場所が欲しいなというような要望がありました。

これらの理由は、サクソのみならず、音楽団体の後継者育成が低迷している原因にもなっておりまして、できれば市民会館や、ふじざくらに防音室を作ってもらえないかなと思います。

最後に、現在神山の生涯学習センターくすのきで、サクソ教室を開講しておりまして、サクソ教室会員に限り、無料で練習場所として提供しております。サクソ奏者の育成のために貢献していきたいと思っております。

市長

ありがとうございました。

自らのサクソ教室での経験を生かしてお話をいただきました。

それでは、渡邊委員お願いします。

渡邊委員

社会教育委員会報告書について、詳しい調査を報告書にまとめ、丁寧に協議が尽くさ

れていて、そのご努力に頭が下がる思いで拝見しました。

先ほどお話ありましたように、その巻末の「ピンチをチャンスに変え、」という表現に、今後の可能性の大きさを感じました。

私は印野地区に住んでおります。コロナの1年目の地域行事は、残念ながらほとんど中止となりました。その後、形を変えながらコロナ禍にあっても感染予防に対応し、子ども達が喜ぶような形で様々な行事を開催していただきました。本当に感謝しています。

子ども達がとっても喜んでいて、それを見る保護者も家族も同じように喜んでいました。

これからの地域づくりを検討するうえで、地域の子子ども達が育つ御殿場市にしていくために、中高生が地域作りに参画する機会を作れたらと思います。

子ども達は発想が豊かで、柔軟です。特に中学校の生徒の皆さんは、学校で主体的に学び、文化祭や体育祭の計画を行い、学校の運営に対して実行していらっしゃいます。ICTも操作できます。地域の中で、実はすごく頼りになる存在です。

アイデアや提案を形にする方法とか、情報を共有しながら計画を進めていく力など、学校で学んだことを地域で試して欲しいなと思います。

子どもや若い方たちの考えを、失敗を恐れずに形にできる御殿場市として、いわゆる「ピンチはチャンス」、「失敗はチャレンジの肥やし」ということで、そのように若い人たちの力が発揮されるといいなと思います。

現在の印野地区での行事には、大勢の子ども達がボランティアとして参加してくれています。お弁当とかお土産は差し上げておりますが、一生懸命やってくれる方たちに対して、子ども達の時間と労力に対して、有償ボランティアという方法があってもいいのではないかと思います。

また、ウィズコロナ、アフターコロナで注意すべきは、やはり「貧困」と、子どもを育てることの「孤立」です。

「貧困」について調べると、「貧困とは、機会が否定されることである」という言葉に行きつきました。貧困が人生における様々な機会を減らし、機会が少ないことによって貧困になってしまう。こういった負のスパイラルに陥らないための手立てを考える必要があります。

御殿場市では、子育て支援日本一を目標に、様々な施策が行われており、フードバンクや、子ども支援プロジェクトという社会福祉協議会と学校が連携して取り組む活動等、十分に機能していると思います。

ボランティアでブックスタートという事業をしているのですが、6ヶ月の赤ちゃんを抱えた方たちがいらっしゃったときに、「子どもを出産してから初めて大人の方と話をしたよ。」とおっしゃっていました。その一言に子育ての孤立が表れていると感じました。

御殿場市では赤ちゃん訪問が実施されています。介護支援員やケアマネージャーの存在もとても助けになります。子育て中の保護者さんにとって、話を聞いてもらうことは、大切な時間になっている場合もあると思います。そういった繋がりが地域の中でも実現できたら、より良いなと思います。

地域づくりをテーマとした報告書を作成していただいた社会教育委員の皆様にお心より感謝申し上げます、終わりにしたいと思います。

市長

ありがとうございました。

地元子ども達に関わる行事の実態からのご意見をいただきました。

それでは、杉山委員お願いします。

杉山委員

今回の議題に関しまして、こちらの社会教育委員会の報告書の中にも出てくるのですが、御殿場市は区自治会活動が大変活発であり、自分たちの居住区は自分たちの手で住みやすくしようという意識のもと、様々な活動に取り組んでいるというふうに書かれておりました。

私自身、御殿場市に来て、地域活動の多さ、そして地域との深い繋がりの深さに大変驚きました。

体育行事や文化祭、夏祭り、防災訓練、子育てサロンなどの就学児の子どもに関するものや子ども会、婦人会の活動など、幅広い世代に向けた様々な活動があるかと思えます。

これらの地域活動に参加することは、周りに知り合いのいない場所に来た私にとって、同じ地区の方たちとの繋がりを持つきっかけにもなりましたし、地域の方たちとの大事なコミュニケーションの場でもありました。

私が今、この地区で楽しく過ごせているのは、これらの地域活動に参加し、地域の方たちとの繋がりを持てたおかげだからだと思っております。

これこそが地域活動、地域行事が何のためにあるのかと考えたときに、大事なことではないかと改めて感じました。

地域と子ども達との関わりというのは、子どもの健全な成長ですとか、次世代の地域の担い手の育成といった観点からも重要なことだと思っております。

地域活動を通して、子どもから大人まで、住民が一緒に取り込むこと自体が、その地域の維持にも繋がるのではないかと考えます。

子ども達は地域社会の中で、親以外の大人と接したり、様々な年齢の友人と交流した

り、様々な生活体験や社会体験、自然体験を積み重ねることで、自ら学んで考え、主体的に判断し、生きる力を見つけていくための基礎となっていると思います。

しかし先ほどからお話にありますように、新型コロナウイルスの感染拡大によって、学校行事を含むほとんどの地域活動が中止縮小となり、明らかにコロナ前と比べると地域との関わり合いは少なく、交流の場は減ってしまいました。

私には今年度小学校に入学した娘がいます。以前であれば入学前に区の子ども会で交流会があったりするのですが、その機会がほとんどなかったために、お兄さんお姉さんのことを知らなかったりします。

また、未就学児を対象とした子育てサロンの開催がなかったことで、区の方でも来年度の1年生をしっかりと把握できておらず、どこの家に、どの年齢の子どもがいるのかがわからなくなっている現状もあります。こういうところにも影響があったのだと感じました。

ただ今年度に入り、多くの行事が実施されているかと思います。

実際今月になり、私の住む高根地区では夏祭りが開催され、地区の運動会や子ども会の研修旅行も4年ぶりに実施されました。

高根地区運動会はスポーツフェスティバルに名称を変え、内容も見直され、参加者や役員の負担の少ない形での開催となりました。

子ども会の研修旅行は中止になった3年間を考え、その間に卒業した子ども達も参加できるように現在の中学3年生まで声をかけ、この3年間を取り戻すような形での旅行となりました。

いろいろな行事に対して、開催しない方が楽であるとか、これを機になくしてもいいのではないかという意見もあるかと思います。

ただ、これらの行事が久しぶりに開催されて、参加した子ども達の心から楽しむ姿や、あふれる笑顔を見て、地域活動の大切さというのを改めて感じる事ができました。

地域活動がなくても暮らしていくことができると考える人もいるかと思います。

こうした活動は、少なからず強制力が伴い、時間的にも作業としても負担を強いるものでもあり、住民の理解や協力なしには成り立たないと思います。

今後を考えたときに、当然行われるべきもの、参加すべきものという、従来通り位置づけが難しいものもあるかと思います。

ただ、それが何のための活動なのか、誰のための活動なのかということに対して、義務とか奉仕という名目だけではなく、意味づけをすることで、住民が納得感を持てるものにしていくことが、これからの地域活動の存続、地域の繋がり維持に必要なのではないかなと考えました。

今年度に入り、高根地区でもコミュニティスクールが動き出しました。地域として学校と関われる機会が増えてきているように感じます。

元々高根地区は地域行事に小学生や中学生がお手伝いやボランティアで参加してく

れたり、学校の授業の一環として、地域のお年寄りを招いた授業があったりと、地域と学校で関わる機会がすごく多かったと思います。

コロナ禍でその機会は減ってしまいましたので、またコミュニティスクールを通して地域と学校が、さらに繋がることで、地域と子ども達の繋がりがまた深いものになれるのではないかなと思っております。

市長

ありがとうございました。

地域活動が非常に大切であるということ、子育ての観点からご意見いただきました。

このテーマに対して、皆さんの熱い思いを伝えていただきまして、ありがとうございます。

地域での行事が満足に開催されなかったコロナ禍の3年間は、子ども達にとって、かなり長い期間だと思います。普段子ども達と接している中で、行事等がないことで、子ども達への影響などについて、教育監にコメントを頂きたいと思います。

教育監

3年間、かなり長かったと思います。学校行事をやる予定でしたけれども、感染状況がひどくなってしまって、中止せざるを得ない状況でした。学校では、どうやって子どもの笑顔が溢れるようにするか、楽しい学校にしていくかということが課題でした。どの学校も考えたと思います。

子ども達のために学校は何ができるか、感染状況は日に日にひどくなっていく中で、どこまでできるかという、そういうことを試行錯誤しながらやってきた3年間だったと思います。

今年度の一つキーワードは、「繋ぐ、繋がる」です。大事なキーワードだと思います。一つは、子ども同士がまずは繋がるということだと思います。マスクの着用や、3密の回避等、感染対策をとってきたものですから、子どものコミュニケーションを構築する機会が減ってしまいました。

それぞれの学校で、コロナ禍で縮小してやってきた行事を、清々とできるようになりましたし、地域の方も学校へお招きできたりするので、体験活動を含めて、子ども達が楽しくなるような行事であるとか、子ども同士が繋がる学習活動を展開して、コミュニケーション能力を伸ばしていければと思います。

また、地域との繋がりも大事です。今年度は3年間繋がりを持てなかった地域と学校が、どうやって繋がっていくかも課題です。地域と共にある学校づくりをどうやって推

進していくか、それぞれの学校で考えて、より良い方法を検討していきたいです。

市長

ありがとうございました。

去年、今年と歩行者天国を開催しました。コロナ前よりも非常に多くの人が出たということでした。その中で特に目立ったのは、子ども達の元気な姿、笑顔です。本当に全てを物語っていると思います。

このあいだ高根地区の運動会に招待されました。一時間ちょっと見させていただいて、ここでも子ども達の元気な姿を見ることができました。

地区体育祭からフェスティバルという名前に変えて、子どもからお年寄りまでが楽しんでやろうというイベントになりました。

新しいスポーツであるとか、ゲームをやったり、自転車をやったり、非常に賑やかな行事でした。これからは、イベントを少し変えていくというやり方も必要なのかもしれない。

見直しの機会という話もありましたが、感染防止という点もあると思うのですけれども、イベントを変えていくというような視点から、何かご意見があったらお願いしたいなと思います。勝又委員どうでしょうか。

勝又委員

イベントを変えていくかどうかはわかりませんが、二枚橋としては、以前の状態に戻したいということで動いています。

子ども達ですけれども、敬老会、文化祭、それから7歳の祝い、それと防災訓練、こちらの方へ、学校にもボランティアのお願いをいたしまして、できるだけ区の子ども達が、区の行事に率先して参加していただけるようにしています。

このところ、縮小形式ということでやっておりましたので、ボランティアをお願いすることができませんでした。今年は幸いにして、ボランティアをお願いしての行事開催が見込まれております。子ども達と、行事を通して密接に繋がりながらやっていこうという形で動いております。

市長

富士岡地区では、湯立神楽を沼田と大坂で拝見いたしました。こういった神社の祭典なんかは、子どもと一緒に実施する行事であるようにも思えます。この点について、大西委員いかかでしょうか。

大西委員

私が区長をやっていた頃も、参加したい行事と参加したくない行事は顕著に分かれていますように思えました。

昔からやっている行事で、人気のある行事はずっと続きますが、そうでないような、例えば体を使うような行事などは、参加したいと思われないことが多いと思います。

できるだけ参加しやすい行事というのも、検討していく必要があるのかなと思います。

市長

先ほど「繋ぐ、繋がる」という話もありましたけども、地域の行事には、子ども達の成長を促している側面もあろうかと思えます。

しかし、大西委員がおっしゃったように、行事の内容によっては、やりたくないと思われる行事は思えます。その辺の見直しとか選択というのも、難しいのですが検討する必要もあるのかなと思います。

原里地区では地区で相撲大会を開催しておりますが、子ども達の状況はいかがでしょうか？

長田委員

相撲に関していうとなかなか難しい部分があります。子ども達は、とても楽しみにしている行事ですが、実は以前、子ども会で土俵の作り方がわからなくなってしまったことがありました。

過去の資料等を紐解けばいいのですが、役員の方の個々の事情もありますので、そういった時間を捻出できない場合もあります。聞いてくれれば教えることもできるのですが、そういうやりとりが必要になります。

また、さらに上の大会があるのですが、そもそも上の大会が中止の際には、我々が運営する大会は予選会だからやらなくていいだろうみたいな考えをする方もいます。

面倒な行事としての側面が強くなってしまっていて、役員が行事開催を放棄してしまう場合もあります。なかなか、難しい部分を感じております。

市長

ありがとうございました。

比較的、印野地区は子どもの小学校入学者が少なかったと思います。高根地区も同様ですが、少人数である分、子どもと地域の繋がりが、非常に強いと感じております。

そうした中で、色々な行事をやっており、先ほど福祉的観点からのお話もありましたが、地域行事と子ども達の繋がりについて、ご意見いただければと思います。

渡邊委員

区長さんをはじめ、役員の皆さんは、コロナ前と同じことをやろうと、本当に努力してくださっています。形を変えながら、実施の方向です。

神社関係とか防災関係とか、それらのことは粛々と同じように進めています。

地区の体育祭は、熱中症への配慮から選手選考が非常に難しくなったということもあり、なくなりました。それに関して反論する方はどなたもいらっしゃらないと思います。

印野小学校の運動会は、地域の体育祭と一緒になっています。地域の子ども達が出るので、消防団や火防の方々にも協力していただいております。

こういった行事の運営は、地域の大人が計画し、それを皆さんで協議しながら検討しながら開催します。

印野小学校は、縦割りの活動が多いので、小学生は高学年から低学年までの繋がりが非常に強いと思います。ボランティアに参加する中学生の様子から、縦割りの繋がりは中学校まで強い状態で維持されていると思います。残念ながら、高校生になると、そういった繋がりが希薄となる傾向にあると思います。

コロナによって変わった教育や、仕事、価値観の中で、コロナ禍を経験した若者が、今こそ地域行事に参画し、新しい視点で計画していってもらえたらと思います。

市長

ありがとうございました。

高根のフェスティバルの話もありましたが、形を変えた行事について、小学生を育てる保護者の目線で、子ども達の反応はどう映りましたか？

杉山委員

子ども達にとって、小学生になってからのイベントは、今年が初めてでした。

特に地区のお祭りで開催された奉納相撲は、子ども達も意気込んでいて、行事を楽しむ姿をたくさん見ることができました。

子ども達にとって、とてもいい経験になったのではないかなと思います。

市長

ありがとうございました。

コロナ禍によって、子どもが部屋に籠ることが多くなりました。今は楽しい行事もいっぱい増えており、外へ出てストレスを発散する必要があると思います。

子ども達にとって、清々と騒いだり遊んだりすることは、必要なことなのかなと思っています。

よく、大人が変われば子どもも変わると言われますが、婦人会さんにしても消防団にしても、会員・団員がなかなか増えなくて、同じ悩みを持っていると思います。

活動を維持していくことに関して、なり手の減少は深刻な問題です。団体の存続自体に危機が迫っており、消防団に関しては、やっぱりご家族の理解が不可欠だと思います。消防団員のいる世帯への生活支援をしようということで、記者発表させていただきました。

婦人会さんも、まずは活動の楽しみを知っていただくということで、視察に行ってもらうバス代の半分以上を補助する等、そういうことを積極的にやることが重要だと思います。

むしろ、そこまでやらないと団体の現状を維持できない状況になっております。

そうした中で、子ども達が様々なことを経験して育つ、育っていくということが非常に大事だということ、そういう方向で一致をしていると、今皆さんの意見を聞いて思いました。

子ども達が地域で活動している、例えばゴミ拾いでも何でもいい良いのですが、そういう機会でも、地域通貨の富士山 G コインを活用したいと考えています。これは経済対策でもあります。子ども達の活動に対して、一生懸命やってくれた子どもに、富士山 G コインのポイントを付与しようという、そういうことを研究しているところです。

実は防災訓練に参加して頂いた方に、100 円相当の 100 ドラマーのポイントを付与しました。地域に出て、交流して欲しいという意味もありました。

活躍している方、例えば全国大会に行ったり、表彰されたり、環境問題に向き合ってくれたりする方に対して、富士山 G コインのポイントを付与しております。

子どもにとっての 100 円は、かなり重要なものかなと思っています。これからいろいろまた、考えていきたいなと思っています。

地域が子どもを育てるという観点から、教育長の想いをお聞きしたいです。

教育長

今、私たちが、直面している社会問題は少子高齢化、そして人口減少です。そういっ

た社会を、これから子ども達は生きていくことになります。

そういった社会の中で、地域作りのポイントになるのは、渡邊委員のお話にもありましたが、若者の存在だと思います。

学校の教育も、昔と違って、いかに社会と繋がるかが重要です。そういったことを子ども達は、日々の勉強の中でやっています。ですから、ボランティアに参加するとか、そういったことについて、今の子ども達は非常に積極的にできるのだと思います。

社会で学んでいこうという姿勢を、地域がどのように理解していただけるのが重要なのだと思います。大人が発想を変えなければならないと思います。

決まったことは子ども達にやらせるのではなく、子ども達と一緒に、地域の行事をやっていく、そこで子ども達が自信を持つ、そういったことが重要かと思います。

どのように子ども達や若者を活かしていけるのが大事です。

もう一つポイントと考えているのは、コミュニティスクールです。令和9年までに全学校にコミュニティスクールを組織していきます。

学校と地域が繋がることで、学校が地域作りの核になり得ないかなと思います。

そういった発想を持ちながら、コミュニティスクールを進めております。ですから、学校は敷居が高いとか、今まで色々な話がありましたけども、地域と学校は繋がって、そして子ども達を育てる、そういったことを教育委員会としても進めておりますので、成功させたいと考えております。

市長

教育委員会としても、コミュニティスクールをはじめ、まず地域との繋がりを進めていくということです。

子ども条例についてもお話がありましたが、私も条例を作るときは直接担当として頑張らせていただきました。やはり学校はもちろん、地域や家庭等、社会総がかりで、子どもを育てていくということが大事だと思います。

行政としましては、新しい図書館資料館を建設いたします。子ども達が集まって、利用してもらうことで、様々な交流が生まれていくことを期待しております。

それから、もう一つ検討している公共施設で、科学技術博物館というのがございます。これは様々な分野の技術の博物館です。ドローン技術や、A I、またはモータースポーツに用いられる技術等の展示が考えられます。子ども達に非常に人気分野の博物館となるので、交流の場としてうまく使っていただきたいです。

それと、道の駅構想というものも間もなく始まる予定です。おそらく日本一、人の集まる道の駅になるのではないかと思います。

現在、御殿場市は静岡県で2番目に観光客が来る都市です。静岡市をもう少しで追い越すのではないのでしょうか。大きな道の駅を作って、これも子ども達の間として、御殿

場の物産を知ったり、歴史を知ったりする施設になるのかなと思っております。

また、印野の地に木育に適した、木のおもちゃ館を建設することを目指しております。ここにもボランティアで活動であったり、あるいは大きな子ども達が小さい子ども達を指導したり、一緒に遊んだりそういう交流の場になると思います。

行政としてもやっぱり子どもを育てていくために、交流の場というのは大事だと思っています。

そもそも私には、御殿場らしい人作り、町づくりには交流の場を持つことで、子ども達を育てていくという根幹がございます。それを行政としても一生懸命やっていきたいなと思っております。

いずれにしても行政や学校だけでは、子ども達を育てるには限界があります。今日聞かせて頂いた皆さんの意見を参考に、工夫しながら対応できればと思います。

地域の力というのは、子ども達を育てるにあたり、非常に大きいということです。そういう結論で今日は締めたいと思います。

今日はどうもありがとうございました。

5 閉会

教育総務課長

ありがとうございました。

コロナ後の地域づくりを考える上で大変貴重な意見を頂きました。

今回の総合教育会議の議論を踏まえた上で、今後の施策を展開する際の参考にさせて頂ければと思います。

本日の協議につきましては以上となります。

市長、教育長、そして教育委員の皆様、本日は長時間にわたりまして、ありがとうございました。

以上をもちまして令和5年度第1回総合教育会議を終了させていただきます。

午後 2時55分 閉会
